鳥取市文化財調査報告書　第32集

令和３（2021）年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

布勢遺跡

２０２２

鳥取市教育委員会

序

この報告書は、開発事業計画に伴い、国庫補助金及び県補助金を受けて、令和２年度から令和３年度に実施した鳥取市内遺跡の発掘調査の記録です。

鳥取市内の平野部や丘陵上には数多くの遺跡が存在しています。これらの遺跡は地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していかなければならない市民の貴重な財産です。

近年は、社会の進展に伴って、各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。中でも「鳥取西道路」建設に伴って行われた発掘調査では多くの遺跡から膨大な量の遺物が出土し、地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存を図るべく関係諸機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査にあたっては、鳥取県地域づくり推進部文化財局とっとり弥生の王国推進課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ、関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

本報告書が私たち郷土の歴史研究の一助となれば幸いです。

令和４年３月

鳥取市教育委員会

教育長　尾室　高志

例　言

1．本書は令和２年度(2020)～令和３年度(2021)に国・県補助金を得て、鳥取市教育委員会が実施した布勢遺跡発掘調査の記録である。
2．本書における遺構図はすべて磁北を示し、レベルは基本的に海抜標高である。
3．発掘調査によって作成された記録類及び出土遺物は鳥取市教育委員会が保管している。

本　文　目　次

第１章　調査の経緯と目的
　第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
第２章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果
　第１節　布勢遺跡の概要と現状 …… 4
　第２節　布勢遺跡の調査 …… 4

挿　図　目　次

第１図　布勢遺跡　試掘調査実測図 …… 2
第２図　布勢遺跡　調査位置図 …… 4
第３図　布勢遺跡　実測図１ …… 4
第４図　布勢遺跡　実測図２ …… 5
第５図　布勢遺跡　検出遺構(SK01～03)実測図 …… 7
第６図　布勢遺跡　検出遺構(P01～15)実測図　7
第７図　布勢遺跡　出土遺物実測図１ …… 9
第８図　布勢遺跡　出土遺物実測図２ …… 10

表　目　次

表１　出土遺物観察表 …… 11

図　版　目　次

図版１
調査地調査前(南から)
調査地C-D断面(南から)
調査地B-A断面(北から)
調査地E-B断面(西から)
第１遺構面(東から)
第２遺構面(東から)
第３遺構面(東から)
SK01断面(南から)
図版２
布勢遺跡　出土遺物１　１～８
図版３
布勢遺跡　出土遺物２　９～16
図版４
布勢遺跡　出土遺物３　17～22・Ｓ１・Ｓ２

第１章　調査の経緯と目的

第１節　調査に至る経緯と経過

今回の調査は令和２年(2020)６月10日に個人住宅建設計画に伴い、埋蔵文化財の有無について照会があり、６月15日付で試掘調査の依頼が提出された。この依頼を受けて７月８日から31日にかけて試掘調査を実施し、ピットや溝状遺構を検出したほか中世の土師皿や古墳時代後期の土師器片などの遺物が出土した。調査結果をもとに開発事業者と遺跡の保存に向けて協議を行った結果、現地保存ができない部分について記録保存をすることになった。

個人住宅建設事業に伴い令和３年(2021)２月23日付で文化財保護法第93条第１項に基づく届出がなされ、３月８日付第202000314728号で鳥取県知事より発掘調査の通知が発出された。これを受けて４月１日付で当教育委員会に発掘調査の依頼が提出され、記録保存の調査を実施することになった。調査期間は令和３年(2021)４月19日から５月26日までである。

第２節　調査体制

発掘調査及び報告書作成時の組織体制等は以下の通りである。

１．試掘調査

令和３年度(2021)　試掘調査　令和２年(2021)７月８～31日　面積11㎡

教育長　尾室高志

文化財課　　課長　佐々木敏彦

　　課長補佐兼鳥取城整備推進係長兼文化財専門員　佐々木孝文

　鳥取城整備推進係　主任兼文化財専門員　細田隆博

　　技師　岡垣頼和

　保存整備係　　係長兼文化財専門員　加川崇

　　主任兼文化財専門員　坂田邦彦

　　主事　寺西和代、田野詩織

　　会計年度任用職員　長谷早紀、松本幸子、田中瞳（１月～）

　鳥取市埋蔵文化財センター　所長　山田真宏　　調査員　横山聖

２．発掘調査および報告書作成

令和３年度(2021)　発掘調査　令和３年(2021)４月19日～５月26日　　面積42.33㎡

教育長　尾室高志

文化財課　　課長　佐々木敏彦

　　課長補佐兼鳥取城整備推進係長兼文化財専門員　佐々木孝文

　鳥取城整備推進係　主任兼文化財専門員　細田隆博

　　技師　岡垣頼和

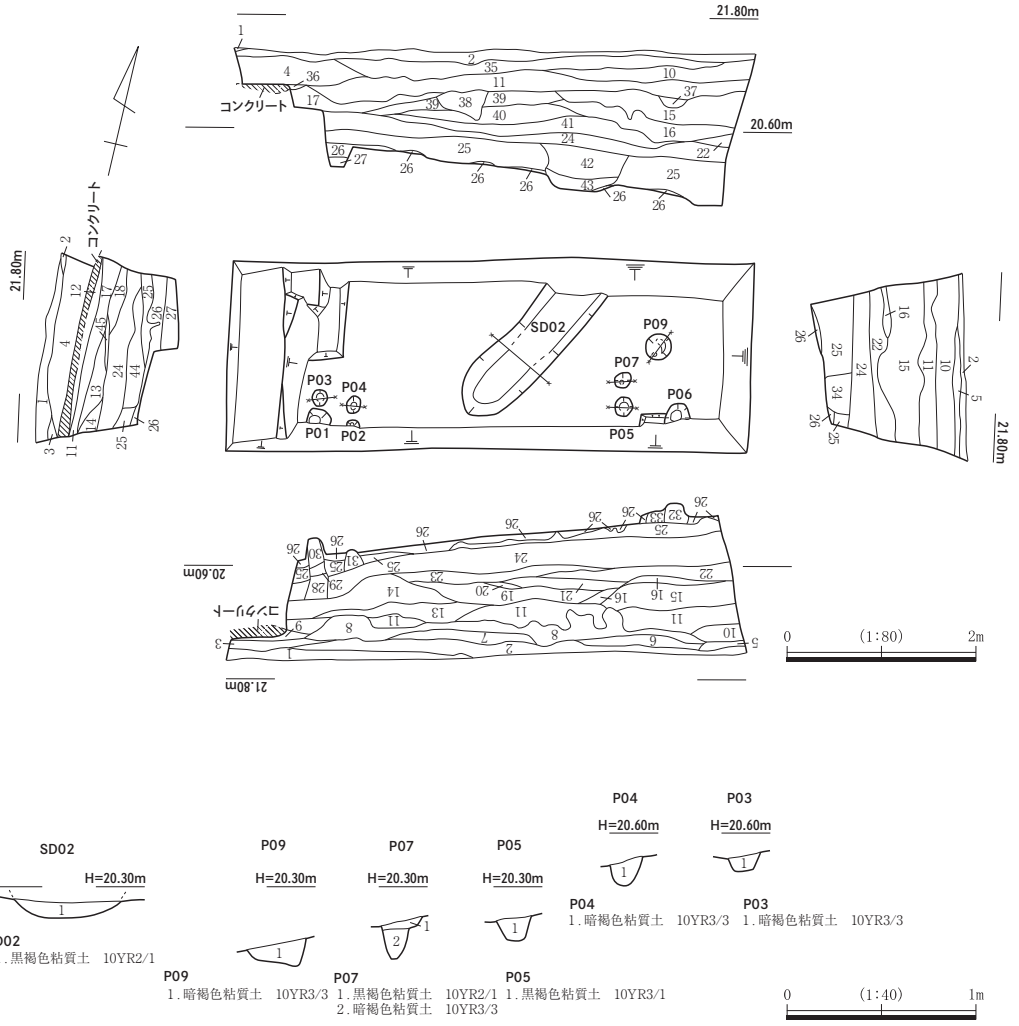
　保存整備係　　係長兼文化財専門員　加川崇

　　主任兼文化財専門員　坂田邦彦

　　主事　寺西和代、田野詩織

　　会計年度任用職員　長谷早紀、松本幸子、田中瞳

　鳥取市埋蔵文化財センター　所長　野際章人　　調査員　横山聖



1.褐色粘質土　10YR4/4(0.5cm～1cm大の黒褐色土ブロック、黄褐色粘質土ブロック、および黄褐色パミスブロックを多く含む)
2.黄褐色粘質土　10YR5/6と褐色粘質土　10YR4/4の混合(黒褐色土ブロックおよび黄褐色パミスブロックを多く含む)
3.黒褐色粘質土　10YR3/2
4.暗褐色粘性砂質土　10YR3/4
5.黒褐色粘質土　10YR3/2
6.褐色粘質土　10YR4/4(2～3cm大の黒褐色粘質土ブロックを僅かに含む)
7.褐色粘質土　10YR4/4(1～5cm大の黒褐色粘質土ブロックを多く含む、黄褐色粘質土ブロックを僅かに含む)
8.黒褐色粘性砂質土　10YR3/1
9.暗褐色粘質土　10YR3/4
10.褐色粘質土　10YR4/4(黄褐色粘質土ブロックを僅かに含む)
11.褐色粘質土　10YR4/4(10よりやや明)
12.にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(アルミ缶、番線等を含む)
13.明黄褐色パミス　10YR6/8と褐色粘質土　10YR4/4の混合
14.褐色粘質土　10YR4/4(黄褐色粘質土ブロックを密に含む)
15.明黄褐色パミス　10YR6/8と褐色粘質土　10YR4/4の混合(13に類似)
16.にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(やや細砂かかる、黒褐色粘質土ブロックを多く含む、明黄褐色パミスブロックをごく僅かに含む)
17.にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(黄褐色パミスブロックを含む)
18.にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(黒褐色粘質土ブロックをごく僅かに含む)
19.褐色粘質土　10YR4/4(11よりやや暗)
20.褐色粘質土　10YR4/4(黒褐色粘質土ブロックを密に含む)
21.褐色粘質土　10YR4/4～にぶい黄褐色粘質土　10YR5/4(19･20より明)
22.褐色粘質土　10YR4/4(21より暗)
23.暗褐色粘質土　10YR3/3(しまっている)
24.暗褐色粘質土　10YR3/3(23よりやや明)
25.黒褐色粘質土　10YR2/2
26.黄褐色粘質土　10YR5/6～褐色粘質土　10YR4/4
27.褐色粘質土　10YR4/6(軟岩かかる)
28.にぶい黄褐色粘性砂質土　10YR4/3(黄褐色砂を含む、黒褐色粘質土ブロックをごく僅かに含む)
29.にぶい黄褐色砂質土　10YR4/3(28よりやや明るく、しまっていない)
30.にぶい黄褐色粘性砂質土　10YR4/3(28･29よりやや明、黒褐色粘質土ブロックを多く含む、しまっていない)
31.暗褐色粘質土　10YR3/3(黒褐色粘質土ブロックを含む)
32.黒褐色粘質土　10YR2/3(25より明)
33.黒褐色粘質土　10YR2/3(25より明るく、32よりやや暗)
34.黒褐色粘質土　10YR2/3
35.褐色粘質土　10YR4/4(黒褐色粘質土ブロックを含む、黄褐色粘質土ブロックを僅かに含む、7に類似)
36.オリーブ褐色砂質土　2.5Y4/3
37.褐色粘性砂質土　10YR4/4(11よりやや明)
38.褐色粘性砂質土　10YR4/4(11よりやや暗、黄褐色粘質土ブロックを含む)
39.褐色粘性砂質土　10YR4/4(11よりやや暗く、38よりやや明)
40.褐色粘性砂質土　10YR4/4(38･39よりやや暗)
41.褐色粘性砂質土　10YR4/4～10YR4/3(40より明、明黄褐色土ブロックを僅かに含む)
42.黒褐色粘質土　10YR2/3(25より明)
43.黒褐色粘質土　10YR2/2(25よりやや明るく、42より暗、暗褐色粘質土ブロックを含む)
44.暗褐色粘質土　10YR3/3(24よりやや明、黒褐色粘質土ブロックを含む)
45.にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(17よりやや明、黄褐色パミスブロックを含む)

第１図　布勢遺跡　試掘調査実測図

第２章　遺跡の位置と歴史的環境

布勢遺跡は鳥取市布勢に所在し、調査地は湖山池東岸の独立丘陵（通称：卯山）に位置する。同丘陵頂部の尾根には古墳時代後期前半に築造された前方後円墳の布勢古墳（国史跡・全長60m）が位置し、北側には戦国期の城館遺跡である天神城跡（県史跡）が所在する。

湖山池周辺でみられる生活の痕跡は、高住井手添遺跡や高住牛輪谷遺跡等で出土した押型文土器が縄文時代早期まで遡り、湖山池南部から南東部にかけての遺跡でみられる。縄文時代後期後半から晩期になると、湖山池沿岸と千代川やその支流によって形成された自然堤防上に集落遺跡が広がり、鳥取平野中心の微高地へと進出していくようである。続く弥生時代の集落遺跡の広がりも縄文時代晩期から継続し、岩吉遺跡や松原田中遺跡等が大規模な集落遺跡として知られる。この他にも各地域で、水田や水利施設、鍛冶関連、玉作り工房等が確認され集落遺跡の数が増加していく。また、布勢鶴指奥墳墓群や桂見墳墓群等が顕著に形成され、鳥取平野の墳墓群は湖山池南東部を中心に展開し古墳時代へと移行する。

古墳時代に入り、鳥取平野周辺の広い範囲で古墳が築造されるようになる。とくに湖山池南部から千代川西岸で古墳群が展開し、前期は弥生時代からの系譜を引く方墳が湖山池南東部の桂見古墳群や倉見古墳群等で築かれている。前期中葉には山陰地方最古級の前方後円墳の本高14号墳（全長64m）が築造され、中期なると、野坂川流域に桷間1号墳（全長92m）や里仁29号墳（全長81m）、古海36号墳（全長67m）等の前方後円墳が築かれる。後期には前述した布勢古墳や桂見６号墳（全長24.5m）のような小規模な前方後円墳が築造され、古墳は小規模な円墳や方墳で構成されるようになる。古墳時代の集落遺跡は調査された例が少なく不明な点が多いが、弥生時代から続く遺跡が多く、西桂見遺跡の調査から古墳築造期になると丘陵上から丘陵斜面へと下りていく傾向がみられ、丘陵裾部の現集落と重複すると考えられている。立地的にも大規模集落ではなく住居が郡的に点在するような分布であると考えられる。代表的な遺跡としては、湖山池南岸の松原谷田遺跡や松原田中遺跡、千代川左岸では岩吉遺跡や菖蒲遺跡、山ヶ鼻遺跡、大桷遺跡等が挙げられる。

律令体制下、調査地周辺は因幡国高草郡に属し、それ以前の７世紀後半には高草評が立評される。高草郡家は、現在の鳥取市菖蒲付近に置かれたと推定され、９世紀頃の墨書土器が出土する菖蒲遺跡や八頭町の土師百井廃寺出土軒丸瓦と同文の瓦が出土する菖蒲廃寺が所在する。さらに、湖山池南岸は古代山陰道が敷設された地域で、官衙や寺院関連施設が集中する。また千代川西岸下流から湖山池東部一帯は、天平勝宝８年（756）に東大寺領荘園として高庭荘が成立するが、荘園の経営はあまり進められず、最終的には藤原氏や国衙役人らの私領となり衰退する。

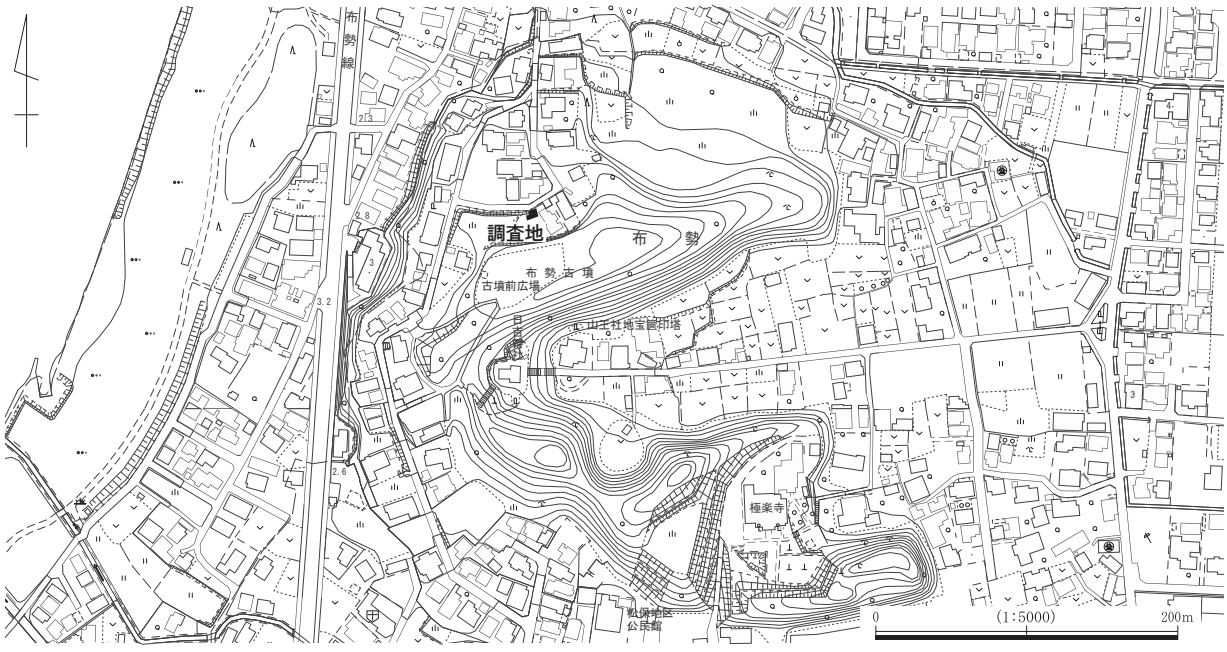
貞治３年（1364）、室町幕府から因幡守護に山名時氏が任じられる。15世紀に入り山名氏は守護所として布施天神山城を築き鳥取城に移るまでの拠点とした。『因幡民談記』によると、調査地周辺は町屋や侍屋敷、寺院群があったと記され、東に開いた馬蹄形を呈する卯山の中央に山王社（現：日吉神社）があり、正暦２年（991）に一条天皇御願寺として創建されたと伝えられる仙林寺もあったことから、門前町として町屋が形成された可能性が想定される。また、14世紀後半に湖山池南西部では長柄川流域に勢力をふるっていた吉岡氏が六反田に丸山城を築く。16世紀中頃、因幡支配権をめぐって因幡山名氏と但馬山名氏とが激しく対立しており、出雲尼子氏と安来毛利氏、毛利氏と織田氏の争いもあって吉岡氏は丸山城から衰上山城、防己尾城へと拠点を移す。そして、天正９年（1581）　　毛利方についた吉岡氏は豊臣秀吉の鳥取攻めによって落とされる。防己尾城については一部曲輪が調査されている。

第３章　調査の結果

第１節　布勢遺跡の概要と現状

調査期間　令和３年(2021)4月19～５月20日

布勢遺跡は鳥取市布勢に所在し、湖山池東岸の独立丘陵(通称：卯山)から南東岸の低湿地及びその南側の台地上に分布する集落遺跡である。調査地が位置する卯山の丘陵頂部には、６世紀前半に築造されたとされる国指定史跡布勢古墳(全長約60m)が位置している。調査地の周辺は、布勢古墳の裾から１段下がった北西側約30m付近の現在も宅地開発が進められている地域である。調査地の表面には、除草シートが敷設され平坦地として現在は管理されている。調査地の北側には市道が東西方向に走り、道路面より１m程度上がった地点が今回の調査対象地である。



第２図　布勢遺跡　調査地位置図

第２節　布勢遺跡の調査

１．層序の概要　〔第１・２図、図版１〕

現況の地表面下には、10～20cm程度の覆土が確認出来る(第１・２層)。その下、地表面下50cm前後まではプラスティックやナイロンなどが含まれた現代の客土が認められる(第３～10層)。また、トレンチの西端部からは北面の市道から調査地側へ上がるために敷設されたと考えられる簡易なコンクリート舗装部が埋没した状態で確認される。なお、調査地東側に幅１m程度の穴を確認した(第11～18層)。穴の埋土はほぼ砂質土でしまりがみられない。以下、第24層までは現代の瓦や陶磁器、土師器などが出土し時期が安定しない。

出土遺物の時期が安定するのは第25層以降である。第25～33層にかけて中世後半の京都系土師器皿が出土している。第25層は比較的しまりが弱く２次堆積の可能性が考えられる。これらの下層、第34層上面でピットを４基検出している(Ｐ01～Ｐ04)。続いて、第35・36層上面で土坑を２基、ピットを８基検出している(SK01・SK02、Ｐ05～Ｐ12)。第35・36層からは複合口縁の土器や土師器を中心に須恵器や把手、移動式カマド、碧玉製の管玉などが出土している。次に、この第35・36層下面で土坑を１基、ピッ

トを４基検出している。以下、遺物は出土していない。

２．検出した遺構・遺物

第１面の遺構

P01～P04〔第３・６図、図版１〕

P01～P03は調査地の東側で、P04は調査地の西側で検出している。P01～P03は直線的に並び、規模は径42～34㎝、深さは22～15㎝を測る。平面形はやや窪んだ円形を呈し、断面形は逆台形が主体で埋土は２層に分けられる。次に、P04の規模は径22㎝で深さは78㎝を測る。平面形はやや窪んだ円形で、断面形は直線的に立ち上がり、埋土は３層に分けられる。

第２面の遺構

SK01〔第４・５図、図版１〕

SK01は調査地のほぼ中央で検出している。規模は長さ308㎝、幅91㎝で、深さは55㎝を測る。平面形は隅丸長方形で、断面は逆台形を呈する。主軸はN=21°=Wで、斜面に対してほぼ平行で北方向へ下る。SK01の主軸の延長線上にSK02が位置し、周辺にはP05～P12が位置しており、関連性が窺える。埋土は２層に分けられ、下層から土器の細片が出土している。

SK02〔第４・５図〕

SK02は調査地の西側で検出している。SK01の南側に位置し、調査地の北壁に接しているため詳細な法量は不明であるが、遺存値で幅144cm、深さ50cmである。平面形は楕円形と推定し、断面形は逆台形を呈する。埋土は単層で遺物は出土していない。

P05～P12〔第４・６図〕

P05～P09は調査地中央、P10～P12は調査地の西側で検出している。P05はSK01の北東側に位置し、径は24㎝、深さは８㎝を測る。P06～P09とP10～P12はそれぞれ密集して検出されており、建て替えなどの可能性が推測される。P06～P09の規模は、径35cm～20cm、深さ34cm～８cmを測る。次に、P10～P12の規模は、径20cm～18cm、深さ19cm～11cmを測る。P05は径24㎝を測り深さは８㎝である。平面形はやや窪んだ円形が主体で、断面形は逆台形を呈する。なお、埋土から遺物は出土していない。

第３面の遺構

SK03〔第４・５図〕

SK03は調査地のほぼ中央で検出している。規模は長さ68㎝、幅60㎝で、深さは21㎝を測る。平面形は隅丸方形で、断面は皿形を呈する。主軸はN=45°=Eである。南西側にはP14とP15が位置しており関連性が窺える。埋土は２層に分かれ、下層には炭化物が含まれる。なお、遺物は出土していない。

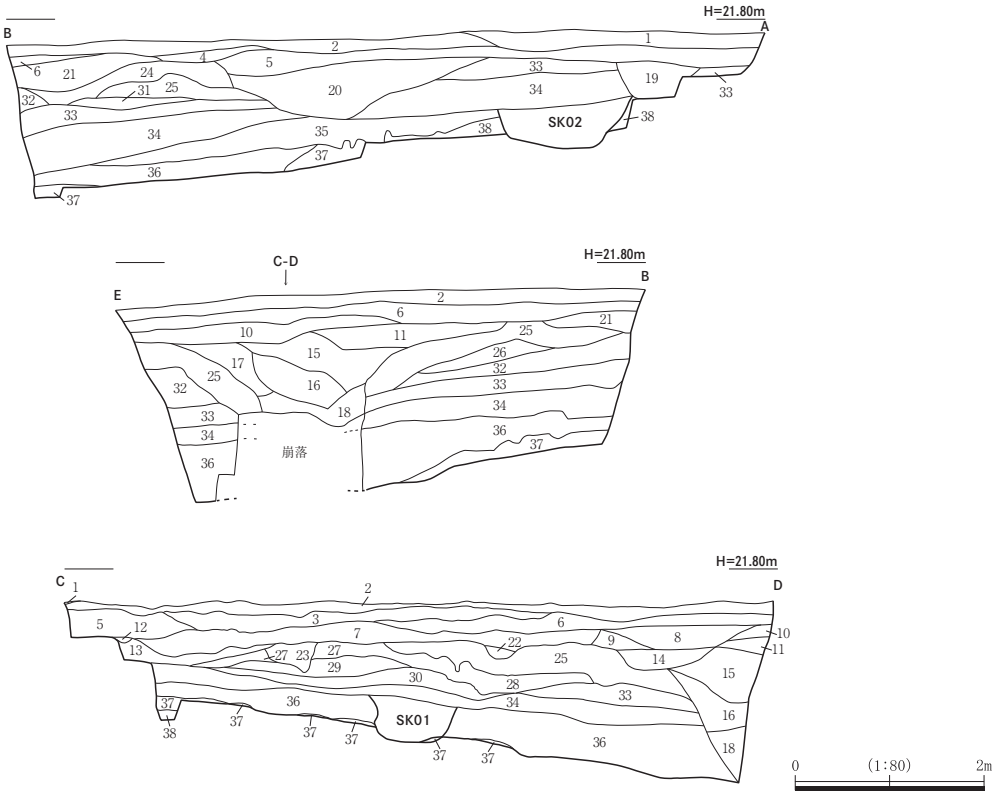
P13～P15〔第４・６図〕

P13は調査地の東側、P14とP15は調査地のほぼ中央で検出している。P13の規模は径17cm、深さ13cmを測る。P14とP15の規模は径36cm、26cm、深さ17cmを測る。平面形はやや窪んだ円形が主体で、断面形は逆台形を呈する。P16は単独であるが、SK03とP14とP15はそれぞれ密集して検出されており、建て替えなどの可能性が推測される。なお、埋土から遺物は出土していない。

遺構外遺物　〔第７・８図、図版２～４〕

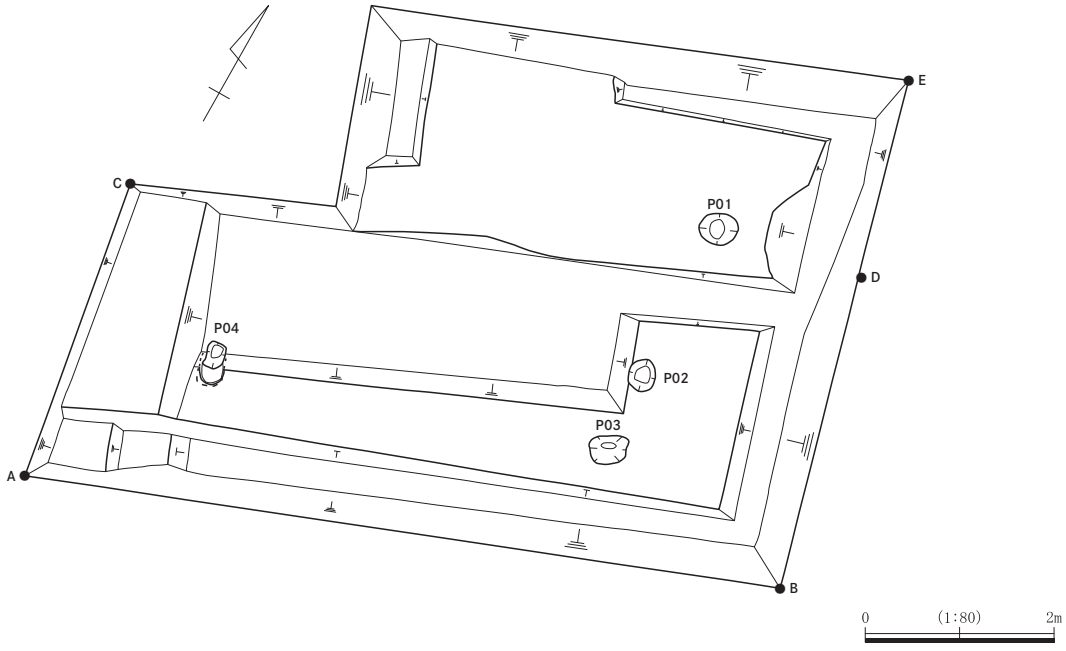
今回の調査では、土師器を中心に弥生土器や須恵器、陶磁器などを含め、コンテナ(54×34×20cm)約４箱分に相当する。出土遺物のうち、弥生土器(第６図１～10)と土師器(第６図11～12、14～17)、須恵器(第６図13)、陶磁器(第６図18、19)、把手(第７図20)、移動式竈(第７図21)、土錘(第７図22)、(第７図Ｓ１)、砥石(第７図Ｓ２)を図化した。出土遺物は、第35層と第36層から主に出土し、弥生土器や土師器片が多く出土している。次に、第25層～第33層から京都系土師器皿が多く出土している。

(１)～(３)は口縁端部に沈線がみられ、(２)と(３)の頸部にはヘラ削りが施される。(５)～(７)は複合口縁で、(６)と(７)は沈線の後、ナデている。(８)～(10)は底部で、外面に(９)はハケ目、(10)はミ



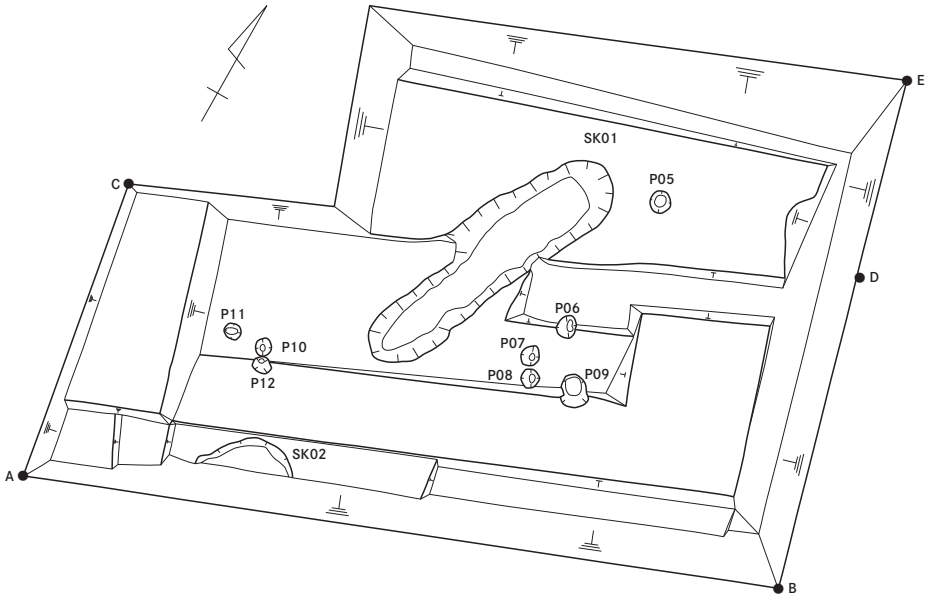
1. 褐色粘質土　10YR4/4(0.5～1㎝大の黒褐色土ブロック及び黄褐色粘質土ブロック、黄褐色パミスブロックを多く含む)
2. 黒褐色粘質土　10YR2/2(褐色粘質土10YR4/4と混合。黒褐色土及び黄褐色パミスブロックを多く含む)
3. 褐色粘質土　10YR4/4(黒褐色粘質土ブロックを含む。黄褐色粘質土ブロックを僅かに含む)
4. 黒褐色粘質土　10YR3/2(第5層より明るい)
5. 黒褐色粘質土　10YR3/2
6. 褐色粘質土　10YR4/4(黄褐色粘質土をブロック状に僅かに含む)
7. 褐色粘質土　10YR4/4(第6層よりやや明るい)
8. 褐灰色粘質土　10YR5/1(砂粒及び根痕を含む)
9. 黄褐色砂質土　10YR5/6(地山軟質岩をブロック状に含む。しまりが弱い)
10. 褐色粘質土　10YR4/4
11. にぶい黄褐色粘質土　10YR5/4
12. オリーブ褐色砂質土　2.5YR4/3
13. にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3(黄褐色パミスブロックを含む)
14. 褐灰色粘質土　10YR4/1(炭化物及び砂粒を含む)
15. 橙色砂質土　7.5YR6/8(しまりがない)
16. 明黄褐色砂質土　10YR7/6(砂粒を含む。しまりがない)
17. 明黄褐色砂質土　10YR7/6(第16層より暗い)
18. 褐色粘質土　10YR4/4(砂粒を含む。しまりがない)
19. 黒褐色粘性砂質土　10YR3/1(根痕。しまりがない)
20. 黒褐色粘性砂質土　10YR3/1(根痕。しまりがない)
21. 暗褐色粘質土　10YR3/3(根痕)
22. 褐色粘性砂質土　10YR4/4(第7層よりやや明るい)
23. 褐色粘性砂質土　10YR4/4(第7層よりやや暗い。黄褐色粘質土ブロックを含む)
24. 灰黄褐色粘質土　10YR4/2(炭化物を含む)
25. 明黄褐色パミス　10YR6/8(褐色粘質土10YR4/4の混合)
26. 褐色粘質土　10YR4/4(炭化物及び黄褐色パミスを含む)
27. 褐色粘性砂質土　10YR4/4(第7層よりやや暗く。第23層より明るい)
28. にぶい黄褐色粘質土　10YR4/2(10YR4/2)
29. 褐色粘性砂質土　10YR4/4(第23･27層よりやや暗い)
30. 褐色粘性砂質土　10YR4/4 ～ 10YR4/3(第29層より明るい。明黄褐色土ブロックを僅かに含む)
31. にぶい黄褐色粘質土　10YR5/4(炭化物を含む)
32. 灰黄褐色粘質土　10YR4/2(砂粒及び炭化物を含む)
33. 黒褐色粘性砂質土　10YR3/1
34. 褐色粘質土　10YR4/4
35. 黒褐色粘質土　10YR2/2
36. 暗褐色粘質土　10YR3/3
37. 黒褐色砂質土　10YR2/2(褐色粘質土10YR4/4の混合)
38. 褐色粘質土　10YR4/6(地山か)
SK02. 褐色粘質土　10YR4/4(砂粒を含む)

第1面

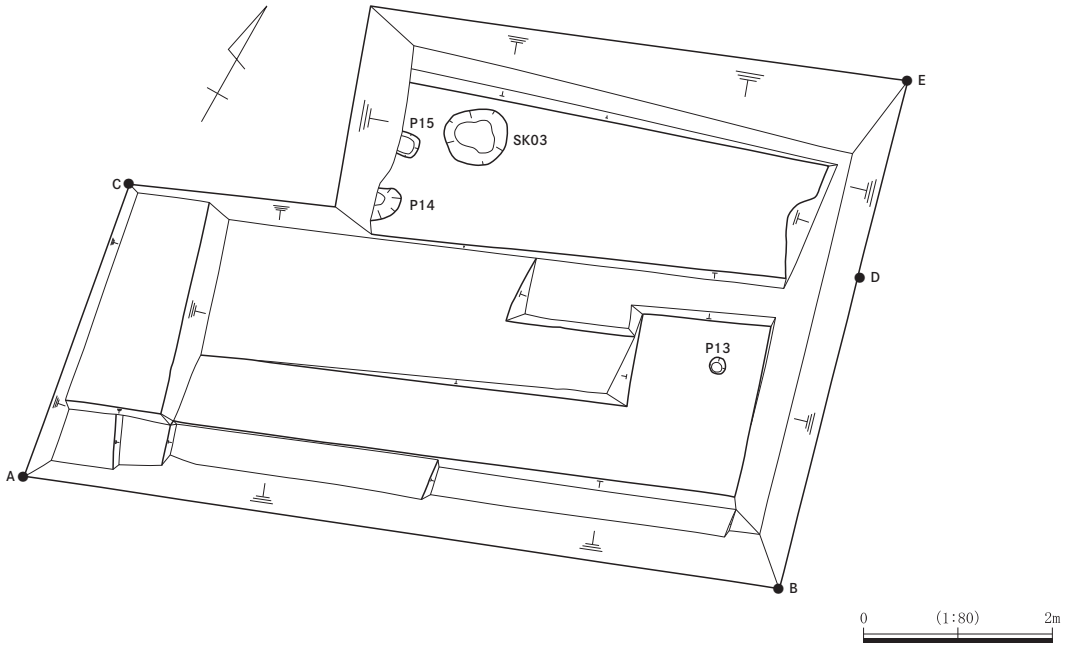


第３図　布勢遺跡　実測図１

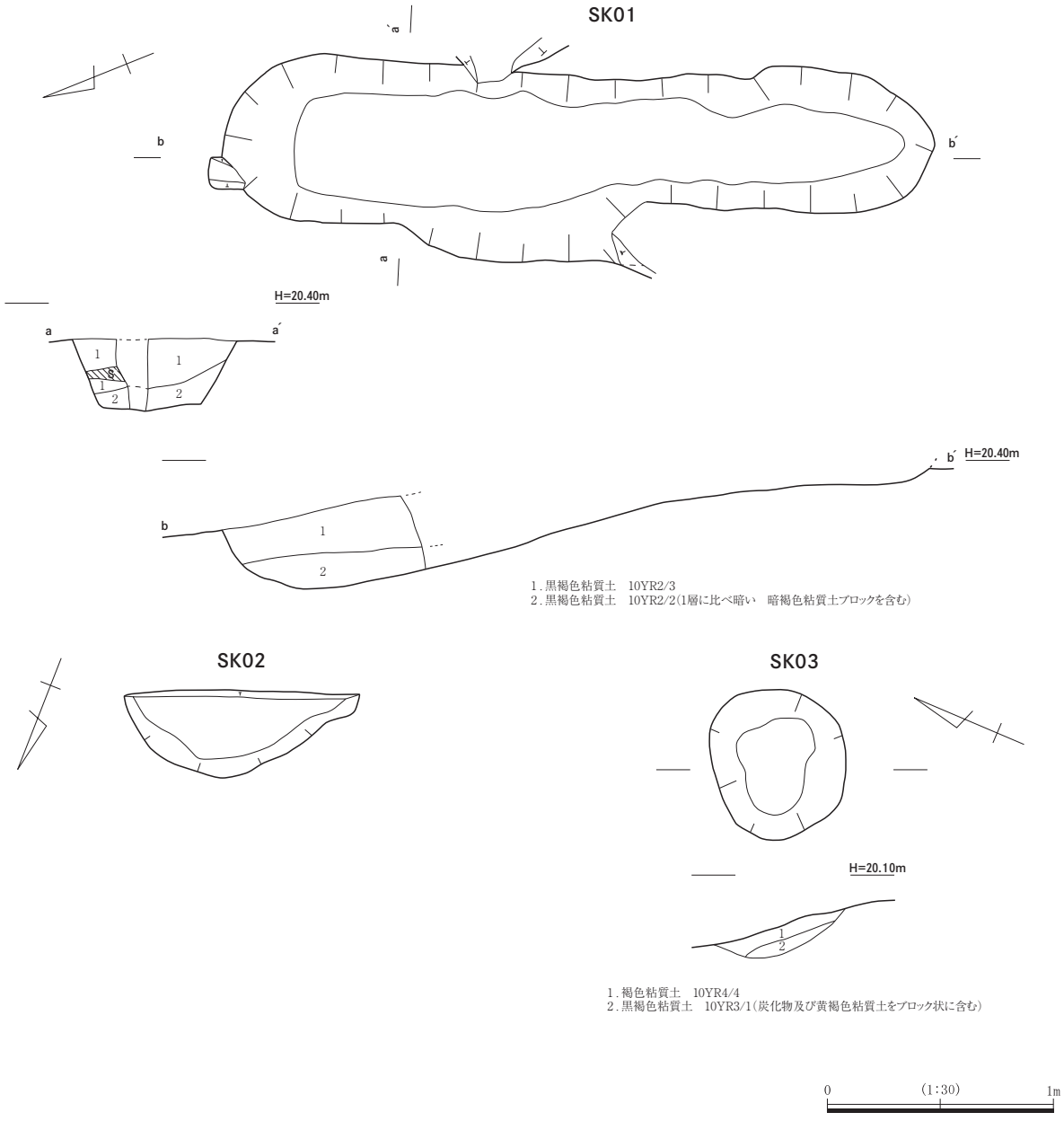
第2面



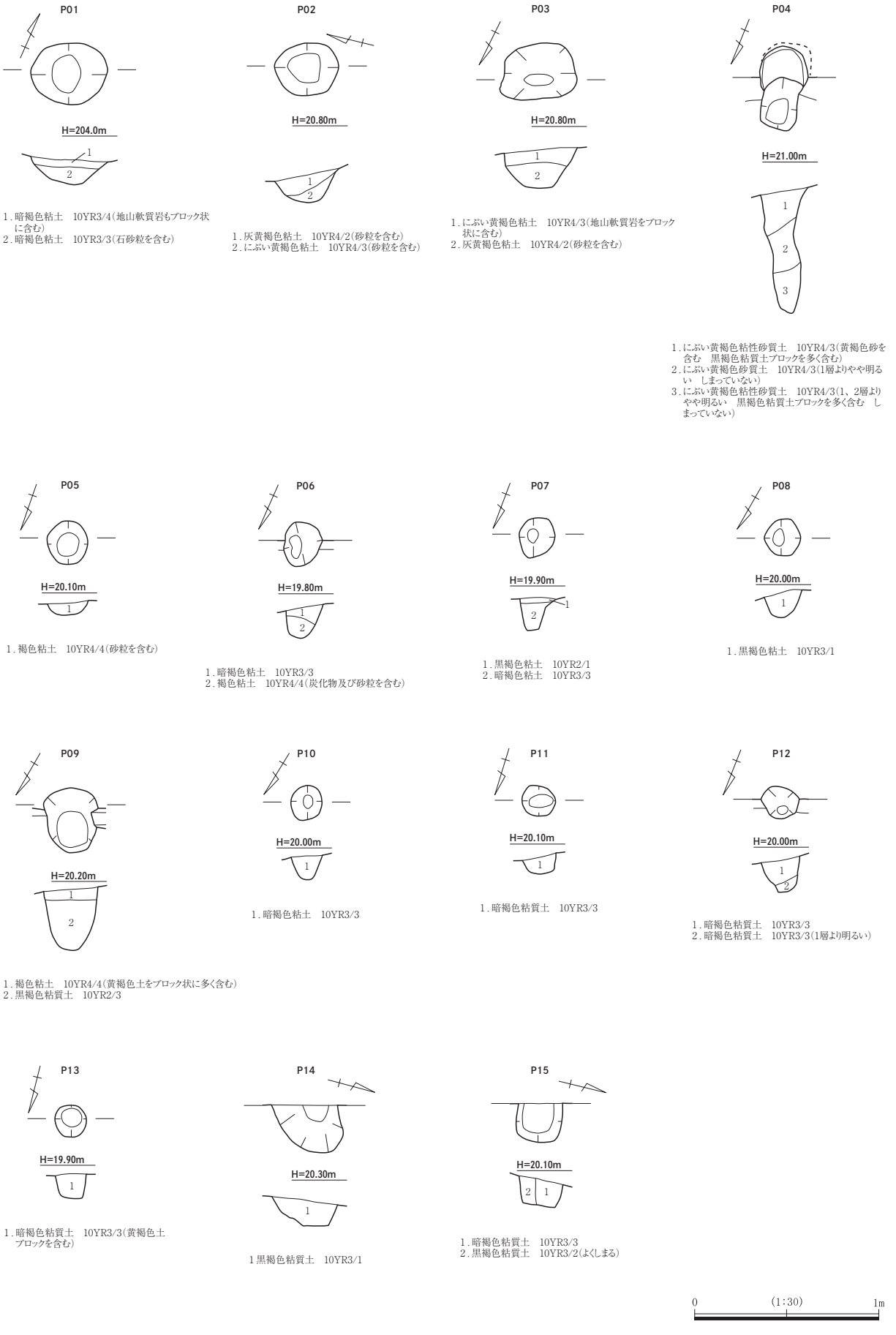
第3面



第４図　布勢遺跡　実測図２



第５図　布勢遺跡　検出遺構(SK01～03)実測図



第６図　布勢遺跡　検出遺構(P01～15)実測図

ガキが施される。(11)は低脚坏で風化剥落が著しい。(12)は小型丸底壺の口縁部と推測される。(13)は高台付杯身で、高台は底端部にナデ付けられたと考えられるが欠損している。(14)は椀の底部で、糸切りが施され底端部に段を持つ。(15)～(17)は京都系土師器皿で、(18)は白磁の碗で三角形状の玉縁口縁を持つ。(19)は、白磁の底部で一部施釉がみられない箇所がある。

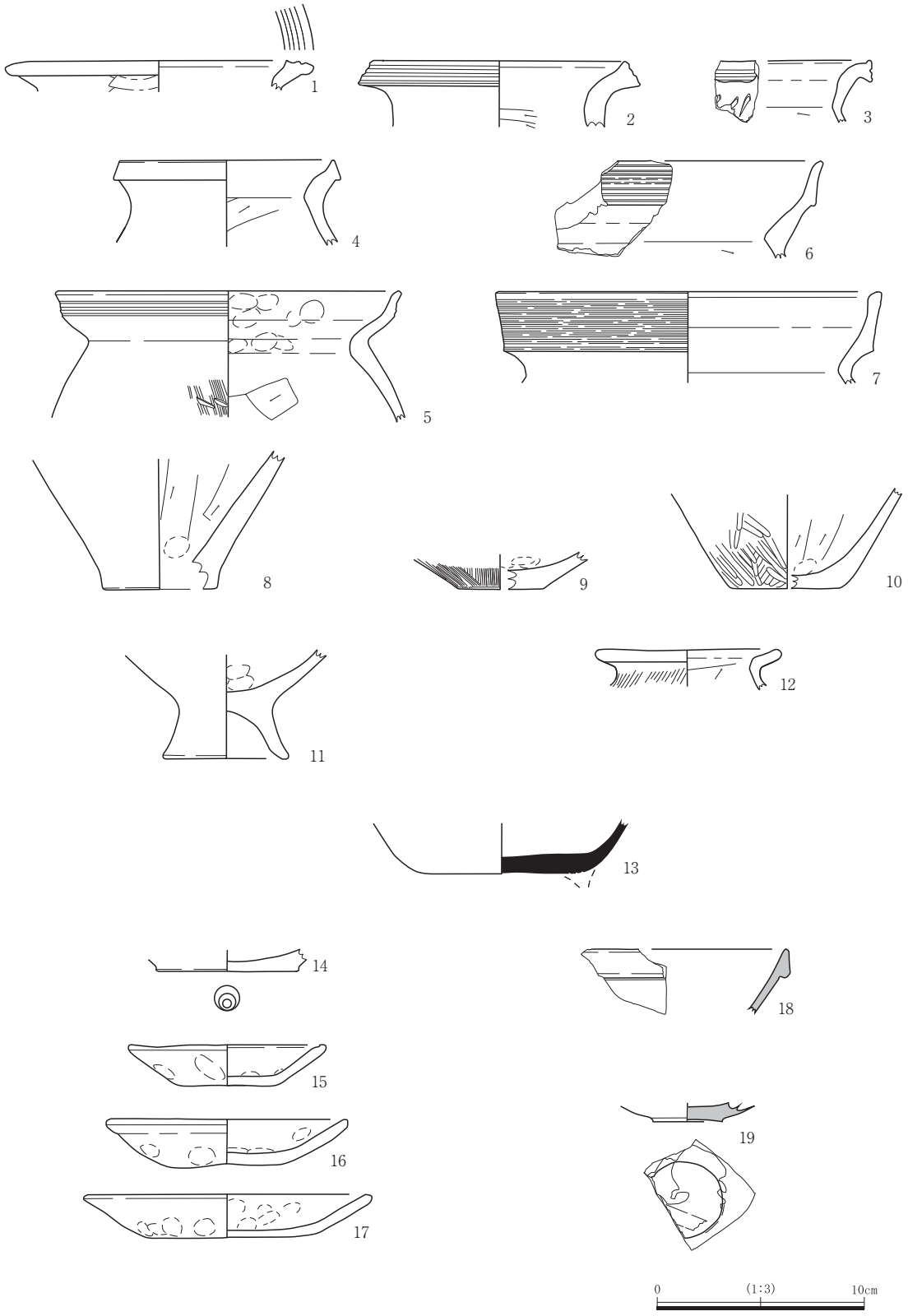
(20)は把手で、(21)は移動式竈の庇部で考えられ、ともに風化剥落が著しい。(22)は土錘である。(Ｓ１)の管玉は、碧玉製で暗緑灰色の両面穿孔である。(Ｓ２)の砥石には幅0.3～0.6㎝程度の円柱状の磨痕がみられる。

まとめ

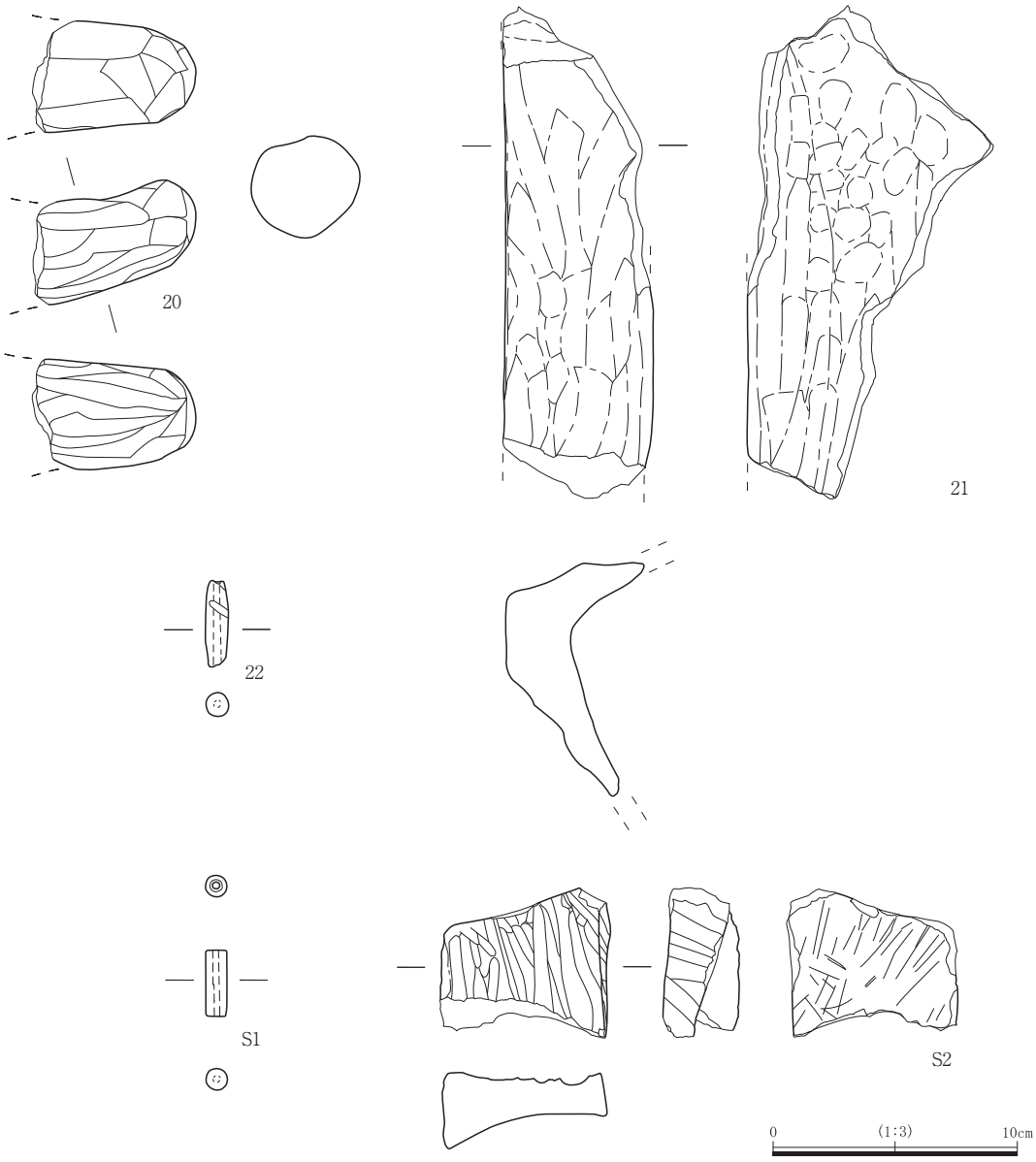
布勢遺跡は鳥取市布勢に所在し、調査地は湖山池東岸の独立丘陵(通称：卯山)の北側にあたる。調査の結果、遺構面を３面確認し、土坑を３基とピットを15基検出している。第１面の時期は、第34層から平安時代後半にあたる土師器の椀の底部や白磁などが出土しており、それ以降の時期と想定される。第２面は第34層の出土遺物から平安時代後半以前にあたると想定される。第３面は、第36層の出土遺物から奈良時代以前と推測される。遺構は直線的に並ぶものや密集しているものもみられ、柵列または建物跡の可能性が想定されるが、調査範囲が小規模であるため性格は不明である。ただし、遺跡が調査範囲外に広がることは十分考えられる。湖山池は中世まで日本海とつながった内海であったと考えられている。近年、松原田中遺跡から弥生時代中期を中心とする玉作関係遺物が確認され、碧玉製の管玉や未成品が出土している。遺物包含層から出土した碧玉製の管玉や砥石も関連する可能性が推測される。また２次堆積と思われるが、16世紀前後と想定される京都系土師器皿が出土している。調査地の周辺は、天神山城に関わる侍屋敷であったと想定されており関連する可能性が考えられる。当時の様相を検証する資料の一助になることを期待して今回の調査の結語としたい。

参考文献

平凡社地方資料センター『鳥取県の地名』1992年
公益財団法人鳥取市文化財団『鍋山城跡・鍋山古墳群』2017年
公益財団法人鳥取市文化財団『里仁古墳群』2017年
鳥取県『新鳥取県史(資料編)考古２古墳時代』2020年
鳥取県埋蔵文化財センター『秋里遺跡(松下地区)』2018年
鳥取県埋蔵文化財センター『松原田中遺跡Ⅲ』2018年
鳥取県『新鳥取県史(資料編)考古３飛鳥・奈良時代以降』2018年
錦織勤 2013『古代中世の因伯の交通』鳥取県史ブックレット12



第７図　布勢遺跡　出土遺物実測図１



第８図　布勢遺跡　出土遺物実測図２

表１　出土遺物観察表

土器　　（　　）復元値

挿図番号	器種	法量(cm)	形態・手法の特徴	①胎土②焼成③色調	残存状況	残存状況	遺物登録番号
第７図 1	弥生土器 壺 (口縁部)	口径　(14.8) 器高　1.6	(外内)ナデ。 (内)2条の沈線。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外内)にぶい黄褐色	(口縁部)1/12		141
第７図 2	弥生土器 壺 (口縁部)	口径　(12.2) 器高　3.2	風化剥落著しい。 (外内)ナデ、口縁端部3条の沈線。 (内)頸部下位ヘラ削り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外内)にぶい橙色	(口縁部)1/12		119
第７図 3	弥生土器 壺 (口縁部)	器高　3.0	(外内)ナデ。 (外)口縁端部2条の沈線。頸部刺突文。 (内)頸部下位ヘラ削り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外内)にぶい橙色	(口縁部)1/12		78
第７図 4	土師器 壺 (口縁部)	口径　(10.4) 器高　3.9	風化剥落著しい。 (外内)ナデ。 (内)頸部下位ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)にぶい橙色(内)橙色	(口縁部)1/12		115
第７図 5	土師器 壺 (口縁部)	口径　16.6 器高　6.1	複合口縁。(外内)ナデ。 (外)口縁部3条の沈線。体部ハケ目、刺突文。 (内)口縁部指オサエ。頸部下位ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)にぶい黄橙色(内)にぶい橙色	(口縁部)1/6		111
第７図 6	土師器 壺 (口縁部)	器高　4.85	複合口縁。風化剥落著しい。 (外内)ナデ。 (外)8条の沈線。(内)頸部下位ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)灰褐色(内)にぶい橙色	(口縁部～底部)1/2		130
第７図 7	土師器 甕 (口縁部)	口径　(18.4) 器高　4.4	複合口縁。風化剥落著しい。 (外内)ナデ。 (外)12条の沈線。(内)頸部下位ヘラ削り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③橙色	(口縁部)1/12		70
第７図 8	弥生土器 (底部)	器高　6.3 底径　(5.2)	風化剥落著しい。 (内)指オサエ、ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)浅黄色(内)褐灰色	(底部)1/5		83
第７図 9	弥生土器 (底部)	器高　1.5 底径　4.0	(外)ハケ目。底部ナデ。 (内)指オサエ。ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)褐灰色(内)にぶい橙色	(底部)1/2		120
第７図 10	弥生土器 (底部)	器高　4.5 底径　5.2	(外)ミガキ。底部ナデ。 (内)指オサエ。ヘラ削り後ナデ。	①1.5mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)にぶい橙色(内)にぶい橙色～褐灰色	(口縁部)1/12		135 ・141
第７図 11	土師器 低脚坏 (底部)	器高　4.8 底径　(6.0)	風化剥落著しい。 (外)口縁部ナデ。 (内)口縁部ナデ、指オサエ。頸部下位ヘラ削り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②やや不良 ③(外内)橙色	(底部)ほぼ残存		89
第７図 12	土師器 壺 (口縁部)	口径　(8.6) 器高　1.7	(外内)ナデ。 (外)頸部下位ハケ目。 (内)頸部下位ヘラ削り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外内)にぶい橙色	(口縁部)1/5		81
第７図 13	須恵器 高台付杯身 (底部)	器高　2.4 底径　7.4	底部は平坦で僅かに内湾しながら外方へ立ち上がる。底端部に高台の剥離痕。 (外内)ロクロナデ。 底部糸切り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外内)灰白色	(底部)1/3		104
第７図 14	土師器 椀 (底部)	器高　0.6 底径　(6.8)	(外内)ロクロナデ。 底部糸切り後ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)にぶい橙色～灰褐色(内)にぶい橙色	(底部)1/3		72
第７図 15	土師器 皿	口径　(9.6) 器高　2.0 底径　4.4	手づくね。 (外内)ナデ。	①1mm以下及び3mmの砂粒を含む。 ②良好 ③にぶい黄橙色	1/3		10
第７図 16	土師器 皿	口径　11.5 器高　2.4 底径　5.4	手づくね。 (外内)ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③にぶい黄橙色～橙色	(口縁部)1/4 (底部)ほぼ残存		10
第７図 17	土師器 皿	口径　13.5 器高　2.1 底径　7.1	手づくね。 (外内)ナデ。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③にぶい黄橙色	ほぼ残存		46
第７図 18	白磁 碗 (口縁部)	器高　3.1		①1mm以下の砂粒を含む。 ②硬質 ③(断)灰白色(釉)透明	(口縁部)1/12	施釉	75
第７図 19	白磁 碗 (底部)	器高　0.7 底径　3.4	底部糸切り。	①1mm以下の砂粒を含む。 ②硬質 ③(外内)灰白色(釉)明緑灰色	(口縁部)欠損 (底部)ほぼ残存	施釉	66

土製品　　（　　）復元値

挿図番号	器種	法量(cm)	形態・手法の特徴	①胎土②焼成③色調	残存状況	残存状況	遺物登録番号
第８図 20	把手	最大長　(6.7) 最大幅　4.0 最大厚　4.5	ヘラ状工具によるナデ。	①4mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③にぶい橙色			140
第８図 21	移動式竈 (庇部)		土師質。 (外内)指オサエ、ヘラ削り後ナデ。	①3mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③(外)橙色(内)橙色～にぶい褐色	(庇部)1/4		197
第８図 22	土錘	最大長　3.5 最大幅　0.92 最大厚　0.94 孔径　0.2		①1mm以下の砂粒を含む。 ②良好 ③浅黄橙色～赤橙色	完形		75

石器

挿図番号	器種	法量(cm)	形態・手法の特徴	①胎土②焼成③色調	残存状況	残存状況	遺物登録番号
第８図 S1	管玉	最大長　2.7 最大幅　0.9 最大厚　0.9 孔径　0.2	両面穿孔。	暗緑灰色	完形	碧玉 重量130ｇ	141
第８図 S2	砥石	最大幅　6.8 最大厚　3.2	短軸１面を除き磨痕。 長軸１面に幅cm程度の円柱状の磨痕有。	灰白色	一部欠損	重量130ｇ	139

写 真 図 版

図版 1

調査地調査前(南から)

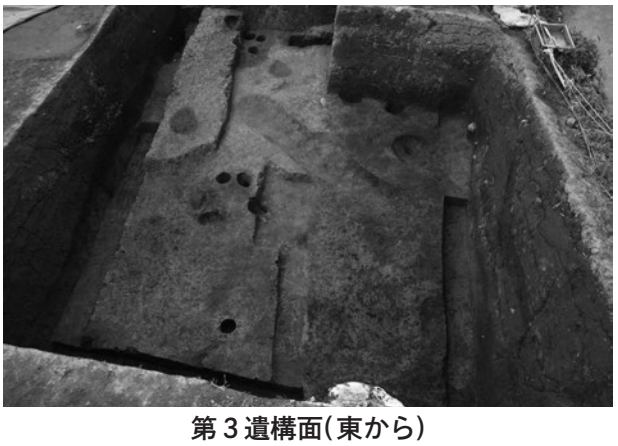
調査地C－D断面(南から)

調査地B－A断面(北から)

調査地E－B断面(西から)

第１遺構面(東から)

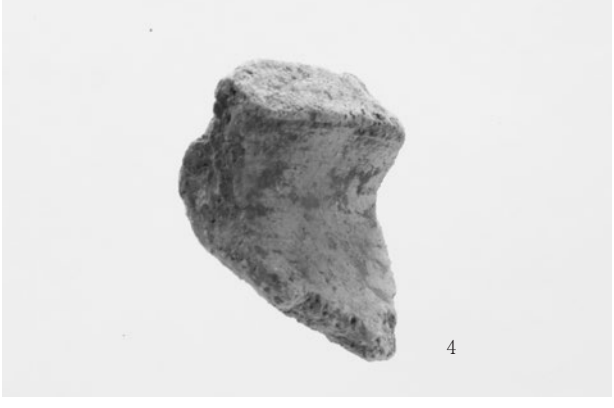
第２遺構面(東から)

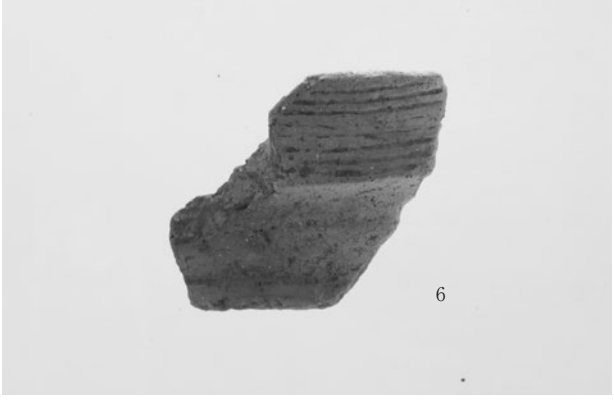


第３遺構面(東から)

SK01断面(南から)

図版 2



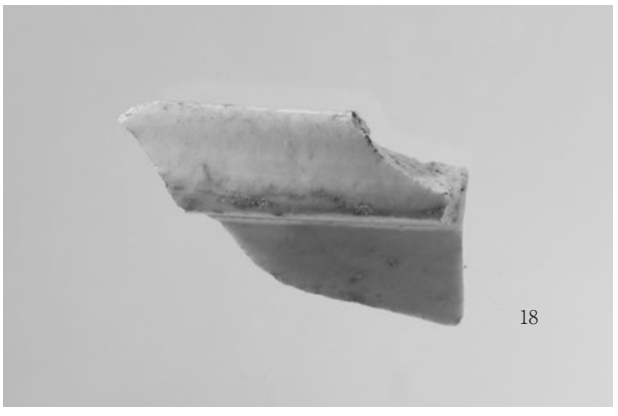


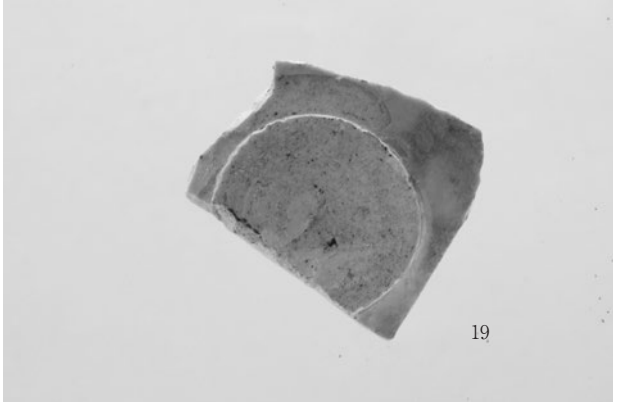
布勢遺跡　出土遺物 1

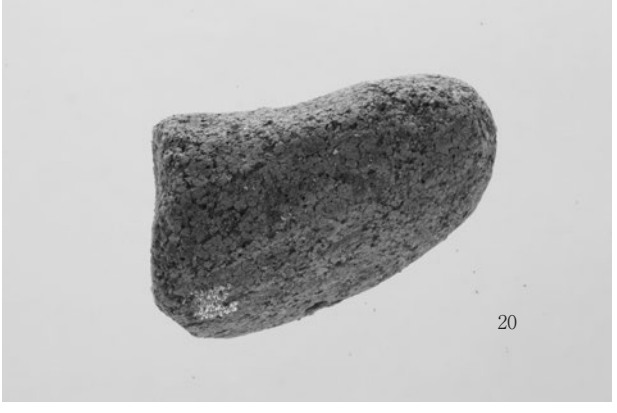
図版 3

布勢遺跡　出土遺物 2

図版 4







布勢遺跡　出土遺物 3

報　告　書　抄　録

ふりがな	れいわ３ねんど　とっとりしないいせきはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	令和３(2021)年度　鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書
副書名	布勢遺跡
巻次	
シリーズ名	鳥取市文化財調査報告書
シリーズ番号	第32集
編著者名	
編集機関	鳥取市教育委員会
所在地	〒680-8571　鳥取県鳥取市幸町71番地
発行年月日	令和４年(2022)３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡					
布勢遺跡（ふせいせき）	鳥取市布勢（とっとりしふせ）	31201	1-0326	35°50′53″	134°17′64″	20210419～20210520	42.33	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
布勢遺跡	集落	弥生時代～中世	土坑、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、白磁、京都系土師器皿、管玉	碧玉製管玉、京都系土師器皿

令和３(2021)年度
鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書
布勢遺跡

令和４年(2022)３月31日

編集
発行
鳥取市教育委員会
〒680-8571 鳥取県鳥取市幸町71番地
TEL(0857)30-8421

印刷
日ノ丸印刷株式会社
〒680-0813 鳥取県鳥取市寿町915
TEL(0857)22-2248